

Challeng ing・・・ロボットビジネスはチャレンジの連続

ロボットどうすれば実用化でき、ビジネスとして成り立つことができるのか。ロボットをビジネスにしようとするほど、さまざまな課題が生まれ、幾多もの壁にぶつかる。

本講座では、そうした一筋縄ではいかないロボットのビジネス化について、実務を通じて考え、実践・経験したことで得た様々な知見をフル動員して、ロボットビジネスを取り巻く国内外の最新動向から、インターネットやTVニュースからでは絶対に得られない実態・ウラ実情を含む「本音の話」まで、日本のロボットビジネスを大局的かつ体系的に解説する。

ロボットビジネスに関心はあるのだけど、どの分野から始めるか悩んでいる、これからロボットビジネスを新規事業としてはじめたい、今までロボットビジネスに携わってきたが収益に結びついてこない、そんなロボットビジネスに関わるすべての方々に十分満足してもらえるよう、真に「骨太のロボットビジネス体系」を目指すと共に、これまでの受講者の意見、要望も踏まえた「本当に知りたい」急所をピンポイントで解説し、日々巷であふれる情報に振り回され、何が真実なのかと戸惑うあなたの「モヤモヤ感」をクリアにして、次のステップにつながる橋渡しを試みたい。あなたはきっと、自分の現在地を確認し、目指すべきロボットビジネスの方向性を深く理解することができるだろう。

2014年10月から6年・74回開講してきた本講座は、メーカー（ハードウエア、ソフトウエア）から金融、商社、IT、スタートアップまで実に幅広い業態業種の方々が受講し、受講をきっかけにロボットの事業を立ち上げたり、事業化の準備やロボットの開発、導入に乗り出す新たなプレイヤーが数多く誕生してきた。

今後ロボットが社会に普及し、ビジネスとしての収益性が問われる段階（いかにスケールアップさせるか）に至ることを踏まえ、新たな価値を提供し、収益に結びつく事例（ベストプラクティス、ケーススタディ、ビジネスモデル）を大幅に拡充すると共に、あなたがロボットビジネスのプロフェッショナルになれるよう全力で応援していきたい。 小林 賢一



- 1 ロボットと暮らす上質で新しい生活＝ロボティック・ライフスタイル®・コミュニケーション・サイト「ロボカーサ・ドットコム」(2005年～)
- 2 夫婦とロボットが繰り広げる大人のコメディ。ロボティック・ドラマ第一幕[Sex Bargain Robot] (2010年、2012年)
- 3 ロボット保険サービス
ロボットや自動運転車、サイバーセキュリティなどの先進技術の保険(2013年～)
- 4 日本ロボットビジネス体系講座(2014年～)



講師：小林賢一
NPO 法人ロボティック普及促進センター 理事長
(株)ロボットメディア 代表取締役

ロボット産業創出推進懇談会 座長(2016～)、ロボット保険サービス 代表(2012～)、かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会 事務局長(2011-2015)、ロボット実証実験実行委員会 委員長(2011-2014)、介護・医療分野ロボット普及推進委員会委員(2010～2012)など。これまで、介護・高齢者見守り、インフラ点検、建築施工、搬送運搬、清掃、コミュニケーション、協働ロボットなどの開発、利活用、セカンド・オピニオンに多数関わり、現在、ロボットビジネスに関する様々な相談に対応している。

2005年 ロボットの調査、マーケティング、コーディネート、プロモーション支援を行う(株)ロボットメディアを設立。これまで介護、医療、生活支援、住宅、宇宙、レスキュー、パーソナルモビリティ、ロボット掃除機、パワーアシスト機器、人協働機器、テレプレゼンス、無人機などのロボット関連技術に関する国内外90を超える調査、500人を超えるロボットキーパーソンへの取材を行う。

2007年に調査・執筆した「高齢者・障害者の次世代自律支援機器の市場性と介護施設のニーズ分析」が、神奈川県 の介護・医療分野ロボット普及

推進事業(2010年)の基礎資料となり、その後の介護ロボットの普及・実用化につながっていく。

2010年 ある家族とロボットとの20年にわたる物語、実証実験シアター「ロボティック・ドラマ 第1幕Sex Bargain Robot」を作・演出(2012年に英字幕付き映像編集版を製作、上映)。

2011年 ロボットの一層の普及を目指す(N)ロボティック普及促進センターを設立。

同年、かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会事務局業務を開始(～2015年6月)。

また、同年から3年間、神奈川県実証実験支援事業の実証実験実行委員会委員長を務め、実証実験の運営手法、安全性の確保など、ロボットが普及していくために必要なノウハウについて、総合的に取りまとめる。

2013年 NPO法人として日本で初めての損害保険代理業務(名称：ロボット保険サービス)を開始し、ロボットやドローンの実証実験、自動運転車のデモ走行、サイバーセキュリティなどの先進技術の保険や安全に係るコンサルティングを行う。

2014年 ロボットビジネスの新たなプレイヤーになるための「日本ロボットビジネス体系講座」を開始。

2015年～2016年 関東経済産業局管轄の広域関東圏(1都10県)におけるロボット関連施策に関する行政ヒヤリング及び注目すべきロボット関連企業、その利用動向調査を実施。

2016年 利害関係のない中立で公正なロボットビジネス適正診断「ロボット・セカンドオピニオンサービス」を開始。

2017年 スウェーデン労働博物館(ARBETETS MUSEUM)の「日本の高齢者ケアにおけるロボットと新しいテクノロジー」展のためのインタビュー及びロボット活用現場の視察先取材に協力。

2018年 セミナー「日本のロボットの2019年問題 ～“ロボット”に引っぱられ過ぎないためのロボティックディスカッション～」(6月 東京ビックサイト)。

2019年 セミナー「データ入出力デバイスとしてのロボット」(6月 東京ビックサイト)。

同年、収益化をテーマにした「新・日本ロボットビジネス体系講座」を開始。

2020年 オンラインセミナー「収益化への道 ロボットビジネスをいかにスケールアップさせるか」(5月 Smart Sensing 2020)。オンライン講座「ロボットビジネスの全貌 その序ノ口講座」(10月 CEATEC 2020)。

また、ヒトと機械と社会との創的関係性(グラン☆ロボティック)に関するロボティック・シンポジウムも定期的に開催している。

これまで開催したロボティック・シンポジウム

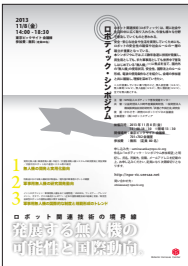
第1回「ロボット関連技術の境界線 ～発展する無人機の可能性と国際動向～」(2013年11月 東京ビックサイト)

第2回「5年後の世界 ～ロボット、量子コンピュータ、量子暗号～」(2016年1月 東京ビックサイト)

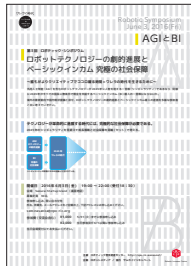
第3回「ロボットテクノロジーの劇的進展とベーシックインカム究極の社会保障」(2016年6月 サムライインキュベート)

第4回「フレラの時代 ソサエティ 5.0の先にあるもの ～幸福・AGI・BI～」(2017年2月 東京ビックサイト)

第5回「ロボットビジネス・プレイヤーズ・サミット ～日本ロボットビジネス体系講座4周年記念シンポジウム～」(2017年10月 幕張メッセ)



ロボティック・シンポジウム「ロボット関連技術の境界線～発展する無人機の可能性と国際動向～」(2013年)



ロボティック・シンポジウム「ロボットテクノロジーの劇的進展とベーシックインカム究極の社会保障」(2016年)



ロボットビジネス・プレイヤーズ・サミット 日本ロボットビジネス体系講座4周年記念シンポジウム(2017年)



NEW・JAPAN ROBOT BUSINESS SYSTEM LECTURE

新・日本ロボットビジネス体系講座 2020-2021

収益化への道 ～いかにして新たな価値を提供し、スケールアップさせるか～

毎月開講
SINCE 2014

当面の間、受講者数を限定して開講します。

開講にあたっては、東京都感染拡大防止ガイドラインに準じるほか、フェイスシールド着用やアクリル板の設置など、ウイルスに感染しない最大限の対策を行います。

詳細はホームページ及び受講案内メールでお知らせします。

なお、本講座はロボットビジネスの全体像を体系的にわかりやすく解説すると共に、毎回最新の情報と事例を取り上げており、他では聞けない本音の話や受講者とのディスカッションを重視した「リアルな場」でしか得ることのできない講座内容になっています。また、受講される方の時間的負担や効率性を考慮して、連続した講座ではなく、1回完結の集中講座にしています。

オンラインでの受講の要望もあるため、オンライン受講に適した講座も検討しています。オンライン受講をご希望の場合はお問合せください。

フレラの時代



Robotic Increase Center

他所では絶対に学べない。ロボットビジネスをスケールアップさせるプロフェッショナルになる。

◆日本のロボットビジネスの基礎から実践、今後の展望までを大局的かつ体系的に解説。

◆国内外、分野別、企画から開発、実証実験、商品化、そして収益化に至る全過程を客観的なデータと現場実務に基づく豊富な利活用事例、ビジネスモデルを交えて検証。

◆これまでの受講者の意見、要望を踏まえ「本当に知りたい」急所をピンポイントで解説。新たな価値の仕組みを提供し、事業を継続・発展させるロボットビジネス収益化への道筋を示す。

開講日【毎月開講/各日13:00～18:00 木曜日】 ※1日5時間の集中講座(1回完結)。連続した講座ではありません。

2020年 11月12日(第75回) / 12月10日(第76回)

2021年 1月21日(第77回) / 2月18日(第78回) / 3月18日(第79回) / 4月15日(第80回) / 5月20日(第81回) / 6月17日(第82回) / 7月8日(第83回) / 8月26日(第84回) / 9月16日(第85回)

会 場：習志野オフィス

※三密を避けるため、1社3名以上で受講をご希望の場合は、受講者ご指定場所で開講します(出張講座)。

また、ニーズに応じた短時間の「目的別講座」(例えば、関心のある分野のベストプラクティス事例やロボット事業開発の抑えどころなど)も可能です。

受講日時やオンライン講座など詳細についてはお問い合わせください。 otoiawase@npo-ric.org

主催：NPO法人ロボティック普及促進センター

新・日本ロボットビジネス体系講座 2020-2021

NEW・JAPAN ROBOT BUSINESS SYSTEM LECTURE

I 基礎編

1.我々は今時代のどこにいるのか、どこへ向かおうとしているのか

- ・Society 5.0の先 ～フレラの時代 誰もがよりクリエイティブで心躍る時間を生きる～
- ・グラン☆ロボティック ～ヒトと機械と社会との劇的関係性 物理的行動を伴うリアル社会のサービスが中心に～
- ・ソフトウェアとハードウェアの交差点 ～主従逆転～
- ・AIとロボットの融合 ～今できることと将来できそうなことの境界線 知性の再現には身体性が必要～

2.先進技術動向予測の捉え方

II 実践編

1.現状を知る

- ・国内外のロボット販売台数、市場シェア
- ・Slerの見分け方 ～産業用ロボットと協働ロボットは似て非なるもの～
- ・中国製ロボットとの付き合い方 ～国内外のロボット関連施策～
- ・海外の最新動向 (Robots that help (役立つロボット) を中心に)

～北米 (アメリカ、カナダ)、欧州 (ドイツ、デンマークなど)、アジア・他 (中国、韓国、台湾、オーストラリア、イスラエルなど)～

- ・ロボットビジネス分野別国際競争力・実用化競争力、特許出願技術動向
- ・ロボットなど先進技術の展示会 (国内/海外)、バーチャル展示会・見学会
- ・ロボット関連技術・機能

～オペレーティングシステム (OS)、クラウドサービス (AWS 他)、三次元計測 (ロボットビジョン、ToF、LiDAR)、SLAM、ロボットハンド / アーム、AGV、パワーアシスト、ロボットコントロールシステム / フリート (集団) 管理、シミュレーション、デジタルツイン、遠隔操作、xR空間コンピューティング、エッジAIなど～

2.なにかから手をつけていけばいいのか

- ・一筋縄ではいかないロボットビジネス ～ロボット導入を阻むもの～
- ・ロボットに“引っ張られ過ぎない” ～すべてをロボット化する必要はない～
- ・失敗する (うまくいかない) 確率の高い例、成功の匂いのする例
- ・ロボットが得意なこと ～データ入出力デバイスとしてのロボット～
- ・ロボットが活躍できる条件
- ・ロボットビジネスに適した分野 ～今後期待される業種～

3.新規事業開発

- ・社内組織改革
- ～デジタルトランスフォーメーション (DX) におけるロボットビジネスの位置づけ、プロのいない世界、チーフロボットオフィサー (CRO)～
- ・社内説得方法 ～ロボット事業による効能、社内意識の変容～
 - ・資金調達方法 ～補助金、投資、クラウドファンディング、賞金コンテスト そのメリット・デメリット～
 - ・大手企業とスタートアップの組み方 ～オープンイノベーション、アライアンス (提携、協業、パートナーシップ)、共創型R&D～
 - ・企画から開発、実証実験、商品化または導入、利活用、販売代理
- ～コンセプト、事業規模、予算、スケジュール、販売方法・販売手段、販路、メンテナンス、カスタマーサクセス (CS)、コミュニティ (開発、ユーザー、サポート)～
- ・アプローチ方法
- ～革新的アプローチ、漸進的アプローチ、工程ごとに考える、機能拡張 (アップデート)、遠隔サポート、ユーザー発ベンダー、まとめてみる～

4.安全性の確保

- ・ロボットに関わる法律
- ・プライバシーと信頼 ～データ収集管理 (iRobot、Amazon)、EU一般データ保護規則～
- ・パブリック・アクセプタンス (社会的受容性) ～心理・倫理、ジェンダーバイアス、バーチャルヒューマン～
- ・本質安全、機能安全、リスクアセスメント、サイバーセキュリティ
- ・国際・国内認証 (ISO 10218、ISO13482、TS15066、JIS Y1001、CEマークなど)
- ・予防/回避行動 ～止めるから「止めない」へ ロボットもケガをしないように～
- ・多層安全 ～安全パッケージで考える～
- ・損害保険 ～ロボットやドローン、自動運転車、サイバーセキュリティなどの先進技術の保険～
- ・ロボティック・リテラシー ～リスクを共有する社会の醸成～

5.収益化への道 ～新たな価値の仕組みの提供～

- ・単品売りからソリューション (組み合わせ) へ
- ・コロナ禍でのソリューションサービス
- ・ロボットのビジネスモデル

～ノウハウ・知的財産、共感・幸福感、サブスクリプション、RaaS (Robots as a Service)、リカーリング、フリーミアム、シェアリング、二次流通、ダイナミック・プライシング～

フレラの時代



III 事例編

1.ベストプラクティス

～ハードウェア / ソフトウェア、サービス、ソリューション、システム～

2.ケーススタディ

- ・産業用ロボット、協働ロボット、サービスロボットの分野別展開事例
- ・作業支援 ～オフィス / 工場・設備、港湾 / インフラ (橋梁、道路、ダム) / 物流・倉庫 / 建設・土木 / 農業・酪農 / 医療・薬局 / リハビリ / 教育・トレーニング / 観光 (宿泊、空港、鉄道 (駅)) / 外食 / 店舗・小売り / スポーツ・ウェルネスなど～
- ・生活支援 ～コミュニケーション (バーバル・ノンバーバル) / 各種サービス / リモート / 清掃 (床、窓) など～
- ・高齢者支援・介護業務支援 (施設・在宅) ～移乗 / 移動 / 排泄 / 入浴 / 見守り (機器、サービス) / コミュニケーション 他～
- ・障がい者支援 ～機器・ロボット / 教育 / 就労～
- ・用途別展開事例 ～案内・清掃・警備・運搬 (デリバリー)～

3.企業別ベンチマーキング

～大手企業、ベンチャー企業、海外企業 (アメリカ、中国、デンマーク、ドイツなど)～

4.体系講座受講企業の最新動向

～ロボット開発 / システム開発・インテグレート・後付け / ロボットメーカー買取・提携・協業 / 海外製ロボット販売代理 / ロボットワンストップサービス / ロボットレンタル・リース / ロボット導入・活用など～

IV ディスカッション

本講座で得られること

・ロボットビジネスに関する共通認識 ・自分 (達) の現在地の確認 ・目指すべき方向性の考察 ・新たな価値を創造するためのマインド ・収益化への具体的な取組みのヒント

対象者：ロボットビジネスに興味がある方。ロボットビジネスを自社のビジネスに取り込みたい経営者や管理職の方。技術は理解しているがビジネスや業務にロボットをどう活用していくか悩んでいる技術者の方。

特に、新規事業としてロボットビジネスを検討している。社内の事業再編で新たにロボットビジネスに関わるようになった。コロナ禍で既存事業が行き詰まり、将来に不安を感じているが、いまだロボットビジネスを始めても大丈夫だろうか。ロボットビジネスをどのように自社の収益に結びつけられよいか悩んでいる。ロボットビジネスで他社の先を行く戦略を考えたい。短時間でロボットビジネス全般 (国内外の最新動向、安全、事例等) を網羅的に把握したい。ネットやTVニュースからのバラバラな情報ではなく、ロボットビジネスを体系的に学んでみたい方。

少人数 (個別対応)

開講日 【毎月開講 / 各日 13:00～18:00】

※講座内容は同じですので、ご都合の良い講座日をお選びください。

会場：習志野オフィス
(JR 総武線 津田沼駅から徒歩 5 分)

2020年	第75回 11月12日 (木)	第76回 12月10日 (木)			
2021年	第77回 1月21日 (木)	第78回 2月18日 (木)	第79回 3月18日 (木)	第80回 4月15日 (木)	第81回 5月20日 (木)
	第82回 6月17日 (木)	第83回 7月8日 (木)	第84回 8月26日 (木)	第85回 9月16日 (木)	

※ロボットの最新動向を反映する講座にするため、講座内容が一部変更される場合があります。

申し込み

下記メールアドレスに必要事項を記載の上、お申込みください。

seminasanka@np-ric.org

件名：新・日本ロボットビジネス体系講座 受講申し込み

必要事項：受講講座日、氏名、企業機関名、部門、年代、所在地、メールアドレス、電話番号、振り込み予定日、受講理由、関心のあるロボットビジネス分野

料金(税込)：33,000円

ゆうちょ銀行 (郵便局) 口座からお振込みの場合

(記号) 10530 (番号) 45074781

[名義] トクヒ ロボティックフキュウソクシンセンター

※ゆうちょ銀行 (郵便局) 以外の金融機関からお振込みの場合

(店名) 〇五八 (ゼロゴハチ) (店番) 058 (預金種目) 普通預金

(口座番号) 4507478

[名義] トクヒ ロボティックフキュウソクシンセンター

※受講日の5日前までにお振込みください。

※入金確認後、当日案内、事前資料をメールでお送りします。

※領収書は講座当日にお渡しします。

※請求書の発行には発行手数料がかかります。

講座終了後、個別相談にも応じます。また、シンクタンクやコンサルティング職などの方からの申し込みはお断りする場合があります。



Robotic Increase Center

NPO 法人ロボティック普及促進センター (RIC) について

ロボティック普及促進センターは、かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会の会員有志などが中心になって設立。

現在、企業や研究機関、自治体などと連携して、ロボット関連技術の普及促進に関する事業を行っている。

2011 年 4 月 設立 (認証)

2013 年 12 月 指定 NPO

2014 年 8 月 認定 NPO

ホームページ <http://np-ric.seesaa.net/>

メールアドレス otoiawase@np-ric.org

三密を避けるため、1 社 3 名以上で受講をご希望の場合は、受講者ご指定場所で開講します (出張講座)。また、ニーズに応じた短時間の「目的別講座」 (例えば、関心のある分野のベストプラクティス事例やロボット事業開発の抑えどころなど) も可能です。

受講日時やオンライン講座など詳細についてはお問い合わせください。

otoiawase@np-ric.org

日本ロボットビジネス体系講座 受講者アンケート集計結果より

受講をきっかけに、ロボットの事業を立ち上げたり、事業化の準備やロボットの開発、利活用に乗り出すプレイヤーが数多く誕生しています。

受講者の主な所属先（社名は受講時）

【電気機器】 アンリツ、オムロン、キヤノン、サムスン電子ジャパン、ソニー、日星電気、パナソニック、パナソニックアプライアンス社、パナソニックA&Iシステムズ社、パナソニックAVCネットワークス社、富士通、安川電機、リコー、SCREENファインテックソリューションズ 【精密機器・電子機器】 アール・ティール・シー、シナノケンシ、フォトロン、リコーテクノロジーズ 【ゴム・金属・印刷】 朝日ラバー、ニッタ、日本発条、NISSHA 【化学】 日東電工、藤森工業、三井化学、JSR 【建設・建材】 清水建設、積水ハウス、大東建託、文化シャッター 【機械・器具・工具】 片倉工業、昭和精工、新東工業、ソミック石川、タキゲン製造、日本精工、日東工器、マキタ、リケン 【宇宙機器・運用】 有人宇宙システム、IHIエアロスペース 【食料品】 キリンビール 【日用品】 ライオン 【その他製造・エンジニアリング】 協栄プリント技研、フラワー・ロボティクス、大豊産業 【研究開発】 フジタ技術センター、本田技術研究所 【情報処理】 インテック、インフォテック・ホールディングス、クリエイティブテクノロジー、グローバルソフトウェア、都築テクノサービス、東日本計算センター、日立システムズ 【情報・通信】 日本ユニシス、KDDI 【鉄道・空港サービス】 東急急行電鉄、日本空港ビルデング 【ITサービス】 楽天、DMM.com 【その他サービス：レンタル・翻訳・会議・展示会】 オリックスレンテック、サン・フレア、芙蓉総合リース、JTBコミュニケーションデザイン 【金融・保険】 ゴールドマン・サックス証券、東京海上日動火災保険 【商社：総合・技術・貿易】 伊東商会、東京エレクトロンデバイス、エレマテック、京二、東邦インターナショナル、豊田通商、ネクスティエレクトロニクス、マクニカ、丸文、リョーサン 【調査・シンクタンク・コンサルティング】 大和総研、日本総研、日本経営合理化協会、日本立地センター、野村総合研究所、ボストンコンサルティンググループ、OKB総研 【行政・団体】 埼玉県、栃木県、藤沢市、浜松市、国際ビジネスコミュニケーション協会、日本伸銅協会 【大学・病院】 山形大学、東急病院、間中病院 など

受講者の主な所属部署

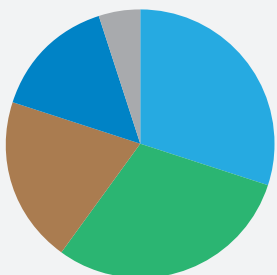
経営、企画・調査、業務戦略、新規事業開発、新領域商品開発、広報CSR、業務管理、営業・販売促進、マーケティング、未来デザイン、ソリューションビジネス、ITイノベーション推進、インキュベーションプロジェクト、R&D、先端材料研究、生産技術、技術開発、機械事業推進、運用サービス、データセンター、スマートエネルギー など

主な受講理由

- ・ロボットビジネスを新規事業として検討している
- ・事業化に向けた準備事項の確認のため
- ・協働ロボット事業に参入するため
- ・ロボットビジネスの基礎を体系的に学びたい
- ・ロボット市場や他社の動向が気になる
- ・これからのロボットビジネスのヒントを得たい
- ・ロボットの実用化に関連する法律や安全性について知りたい
- ・ロボットベンチャーやロボット製品を扱う企業を知りたい
- ・ユーザー導入事例を知り、自分たちのサービスと協働したい
- ・ビジョンセンシング含めてロボットに関連したビジネスチャンスを模索している
- ・自社のセンサーを使ってロボット市場に参入できるか検討したい
- ・工場内の省力化を推進する立場として、最新の事例や展開などを把握したい

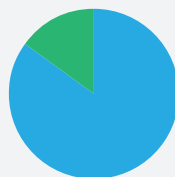
受講後の動向

- ロボットビジネス開始
- 準備中
- 検討、模索中
- 中断、中止
- その他



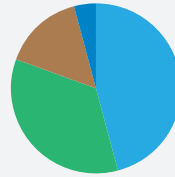
性別

- 男
- 女



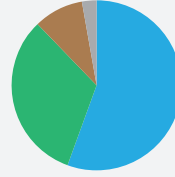
年齢

- 40代
- 30代
- 50代以上
- 20代



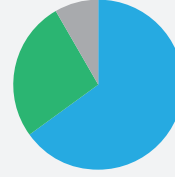
職業

- 会社員（新規事業）
- 会社役員
- 行政・関連機関職員
- その他



ロボットビジネスとの関わり

- 関わっている
- 今後関わる予定
- 関わっていない



受講者の感想



- ・ロボットビジネスを取り巻く環境を多面的（ロボット・機械、業界構成、考え方）に理解できた。また、今後のビジネスの着想についてヒントを得ることができた。（機械・精密機器技術部門・50代男性）
- ・ロボットビジネスの基礎が学べ、事例も多く、とてもわかりやすかった。（生活用品研究開発イノベーション部門・40代女性）
- ・知らない会社の取り組みを知ることができた。自社内ではネガティブな評価を受けている現開発品に活き筋があると自信がついた。（制御機器技術開発部門・30代男性）
- ・事業化に向けてリアリティのある話が聞けた。（技術商社新規事業部門・30代男性）
- ・業界の最新情報など内容がとても充実していた。（技術商社営業部門・20代男性）
- ・ロボットビジネスの期待と現実のギャップを理解することができた。（デバイス機器製造営業部門・40代男性）
- ・実体験に基づいた事例が多く、とても役に立った。（業界団体経営・60代男性）
- ・表層的に知っていたことに対して、追加・掘り下げてもらった。国内のみならず海外の情勢との比較も感じることができた（ロボットスタートアップ経営・40代男性）
- ・少人数で知りたいことを具体的に教えてくれた。（コンピュータシステム開発 経営・40代男性）
- ・ロボットビジネスは難しそうだと思っていたが、講義を受けているいろなアイディアが浮かんできた。（貿易スタートアップ・40代女性）
- ・Sler事業の難しさが良く理解でき、長期スパンにたった事業展開を考えるベースができた。（機械半導体商社事業開発部門・50代男性）
- ・広範囲の情報、特に海外の情報・事例が多く、かつ、経験に基づいた知見を聞くことができた。（建築土木システム開発部門・30代男性）
- ・想像していた以上にビジネスの観点から具体的な考え方を学ぶことができた。（金型成型営業・20代男性）
- ・他では知り得ない情報が満載だった。（インターネットサービス・30代男性）
- ・ロボット産業全体の流れ、展望など、まさにロボットビジネスの「体系」を学ぶことができた。（情報コンテンツ配信企画開発部門・40代男性）
- ・膨大な資料（情報）の提供は今後のビジネスを考える上で大変参考になった。（インフラ電気通信エンジニアリング 経営・60代男性）
- ・ロボット産業の現状について包括的に知ることができた。（人材派遣・20代男性）
- ・バラバラだった知識をまとめて再度学ぶことができた。（半導体機器販売部門・40代男性）
- ・ロボットビジネスの難しさを実感できたが、逆にあきらめずにやっっていこうという気になった。（ICTソリューション新規事業部門・40代男性）
- ・大きな枠での話で大変有意義だった。ビジネスの急所をイメージできた。（自動車用電子部品営業部門・30代男性）
- ・具体的なアプローチ方法について学ぶことができた。（航空宇宙機器営業部門・30代男性）
- ・自分では調べきれない情報や傾向などが効率良くまとまっていた。（住宅建設研究開発部門・30代女性）
- ・これからロボットビジネスに関わっていく方に向け、いくつかのアプローチを平易に解説していた。半日で現状のサービスロボット分野の動向を整理することができ、大変お得だった。講義のブレークダウンの仕方もとても良かった。（新聞社IT部門・40代男性）
- ・日本だけでなく欧米の最新情報を収集することができた。（精密加工 経営・50代男性）
- ・長い経験に基づく体系的な内容だった。（ICTソリューション新規事業部門・30代男性）
- ・ロボットの最新のデータを得ることができた。（地方自治体職員・40代女性）
- ・講座で学んだことはすべての企画に当てはまる。コトを起こすに必要な考え方。ロボット産業を含め、どのように我々の生活に応用し、人々の生活の質を向上させ、ビジネスとして成り立たせるか、考えたい。（電子機器開発 経営・40代男性）
- ・同じ内容で複数回開催されていたので、参加しやすかった。（産業用ロボット技術開発部門・20代女性）